

ジャカルタ国立大学の言語芸術学部日本語学科の2011年・2012年の学
年の二年生における副詞の理解と用法についての能力分析

Rizka Agustina

概要

A. 背景

言語学習者にとって、基本的に言語の文法構造を知るのがとても必要である。日本語学習者も日本語の文法構造についての説明を完全に理解するのは一番必要なことである。

日本語の文法構造に品詞分類というフレーズがある。品詞分類とは文法的に様々な特性によって単語を分類することである。一般的に品詞の種類は十がある。八品詞は自立語の分類に入り、二品詞は付属語の分類に入る。自立語の品詞分類は名詞、代名詞、形容詞、動詞、副詞、前置詞、接続詞、間投詞の称である。付属語の品詞部類は助動詞と助詞の称である。

この研究の中で学生に自立語の部分の副詞についての理解する能力を分析する。日本語を学ぶとき、ほとんどの学生は副詞が難しいと考えていることがある。さらに前のインタビューによって副詞について完全に分かっていない学生がたくさんいて、副詞の意味でも知らない学生もいる。

だから、学生の能力が、副詞を勉強している困難の要因が分かるために、この研究を行う。

B. 問題提供

研究の目的は以下のようなものである：

1. ジャカルタ国立大学の日本語学科の二年生による副詞の能力のレベルについてのデータをもらうため。
2. 副詞についての学生の能力に影響を与える要因が分かるため。
3. 学生からの意見や応答などをもらうため、ソリューションにして提案をあげてみる。

C. 解説

この研究は副詞の理解とか副詞の用法に対する能力分析を行った。色々な理論を調べてみた。副詞の種類と副詞用法のについて理論がいくつかある。各本の著者によって副詞の種類の数多数を述べるのも違いである。

鈴木さん（1972）は日本語文法形態論という本に動詞をかざって、うごきや状態のようす、程度を詳しく説明する単語が副詞と言うと書かれました。その上、他の本の中には副詞について理論の定義がすこし違いである。増岡さん（1992）は他の理論があり、種類の分類を述べることである。その理論と種類の分類は以下のようなものである：

- 1) 副詞とは述語の修飾語として働くのを原則とする語をいうことである。
ですが、主な種類として、「様態の副詞」、「程度の副詞」、「量の副詞」、「テンス・アスペクトの副詞」等がある。
- 2) 文全体に対して修飾語として働く語も、副詞の一種とみなし、「文修飾副詞」と呼ぶ。文修飾副詞には主として、「陳述の副詞」、「評価の副詞」、「発言の副詞」等がある。

寺村さんは（1987）ケーススタディ日本文法という本の中に副詞は山田孝雄（1936）の分類のうち、通常は語の副詞としての、状態の副詞・程度の副詞・陳述の副詞の三種類がとりあげられると書かれていました。さらに、インドネシアの著者は **Gramatika Bahasa Jepang Modern-Seri A** という本の中に **Sudjianto** さんも同じ意見を表明する。

副詞の主な種類は一般的に多くの人々がよく知っていて、よく分かっている副詞という単語である。その副詞は状態の副詞や、程度の副詞や、陳述の副詞などである。**Sudjianto** さんは用法の方法によって副詞を分類する。

- 1) 状態の副詞　：この副詞の表す意味は動詞の表す意味に含まれる。
 - a) 「と」の助詞を付ける方法ということである。
 - b) 「に」の助詞をつける方法ということである。
 - c) 助詞をつけてない方法ということである。
- 2) 程度の副詞　：この副詞の表す意味は程度の表す意味に含まれる。

- a) 形容詞を説明する副詞ということである。
 - b) 形容動詞を説明する副詞ということである。
 - c) 動詞を説明するということである。
- 3) 陳述の副詞 : この副詞は文の形によって用意される。
- a) 否定と呼応するもの : 「決して、必ずしも」
 - b) 依頼、命令、願望と呼応するもの : 「ぜひ、どうか、どうぞ」
 - c) 禁止と呼応するもの : 「だんじて、けっして」
 - d) 推量と呼応するもの : 「まさか、おそらく、たぶん」
 - e) 例えと呼応するもの : 「まるで、さも」
 - f) 打消し推量と呼応するもの : 「まさか、とても、よもや」
 - g) 断定と呼応するもの : 「きっと、必ず、もちろん」
 - h) 疑問と呼応するもの : 「どうして、なぜ」
 - i) かていと呼応するもの : 「万一、もし、たとえ」

この研究は化学的な手続きで起こった出来事や事柄を説明するデスクリプティブメソッドを用いる。研究の対象はジャカルタ国立大学の二年生で、2011/2012学年度の文法科目の参加者である。

調査の結果によると、副詞を使用している学生の能力の平均パーセンテージのは46%、「Kurang」「不足」能力レベルに属する。副詞の理解する能力の平均パーセンテージは43.75%、「Kurang」「不足」能力レベルに属する。副詞の用法するの能力の平均パーセンテージは48.25%、「Kurang」「不足」能力レベルに属する。

副詞について学生の能力の影響を与えている要因は副詞について基礎理論の無知し、副詞の単語は他の単語と違いの無知し、基礎理論が分からないでそのまま副詞を使用することである。

D. 結論

調査の結果によると、副詞を使用している学生の能力の平均パーセンテージのは46%、「Kurang」「不足」能力レベルに属する。副詞の理解する能力の平均パーセンテージは43.75%、「Kurang」「不足」能力レベルに属する。

副詞の用法するの能力の平均パーセンテージは48.25%、「Kurang」「不足」能力レベルに属する。

アンケートと調査の結果によると、副詞について学生の能力の影響を与えている要因は副詞についての基礎理論を知らなくて、副詞の単語は他の単語と違いを知らなくて、基礎理論が分からないでそのまま副詞を使用することである。

学生からの意見や応答などをもらうため、ソリューションにして提案のは以下のようなものである：

- 1) 学期初めには日本語の構造を紹介する、副詞の学習を集中する。
- 2) 学習の方法は副詞について関係している科目と適用される。
- 3) 教師は副詞について能力レベルを注意するのが必要である。
- 4) 学習者は教科書だけでなく、他の学習の資料やメディアで勉強がおすすめである。
- 5) 学習者は副詞について学習の計略を開発するため、先手を取るのが必要である。